



一、慶應二年三月將軍德川慶喜ニ謁シテ大政返上ヲ説カント欲シ脱
 藩シテ京阪ノ間ヲ往來シ有ヨリ退去ヲ命セラレ佐賀ニ送還セ
 ラレテ謹慎ノ命ヲ受クルコト一個月許
 一、慶應三年十月再ビ英船ニ投ジテ脱藩シ横濱ヨリ江戸ニ入り睡ヲ
 回ラシテ海路神戸ニ赴キノレヨリ京都ニ入り國事ニ奔走ス
 一、明治元年一月長崎奉行遁去シ薩長土肥四藩ノ會議事務所開設セ
 ラル、ヤ佐賀藩ヨリ入りテ外交ノ任ニ當ル
 一、翌二月津主水正九州總督トシテ長崎ニ來任スルヤ三月十七日改
 メテ官命アリ徵士參與戰外交事務局判事ニ任セラレ長崎在勤ヲ
 命ゼラル
 一、次イテ官命ヲ以テ東上ヲ促サレ大阪本願寺ノ別院ニ於テ日本政
 府ヲ代表シテ英國公使ハリパークスヲ取ラスシテ黃昏ニ至リ基督教徒處分
 ト會シ午前十時ヨリ午餐ヲ我國ノ有利ニ解決ス
 一、問題ノ難義ヲ上下シテ之ヲ佛國政府ヨリ借償ノ擔保ト爲リ居レル
 一、四月横濱在勤ヲ命ゼラレ佛國政府ヨリ借償ノ擔保ト爲リ居レル
 一、横須賀回收並ニ軍艦兵器買受及ビ總督府ノ軍備補充ノ事等ノ任
 務ヲ帶ビテ任地ニ向フ
 一、閏四月横濱裁判所在勤ヲ命ゼラル
 一、同月英人暗殺事件處理ノ爲メ従前ノ職務ヲ免ジ新ニ長崎府判事

正二位大勳位侯爵大隈重信略歴



兼外國官判事ヲ命ゼラル
 一 同月六日從五位ニ敘セララル
 一 八月廿二日長崎府判事ヲ免ジ外國官判事ヲ命ゼラル
 一 明治二年正月十日參與職ヲ命ゼラレ同時ニ外國官副知事ヲ兼勤
 ス
 一 同月十二日當官ヲ以テ會計官出仕ヲ命ゼラル
 一 三月二十日當職ヲ以テ民政取調ヲ命ゼラル
 一 同月三十日當官ヲ以テ會計官副知事兼勤ヲ命ゼラル
 一 四月十七日外國官副知事兼勤ヲ免ゼラレ單ニ會計官副知事兼勤
 ヲ命ゼラル
 一 五月十二日各國公使ト高輪應接所ニ會見シ貨幣問題ニ就イテ商
 議ス
 一 同月十五日從前ノ職務ヲ免シ改メテ會計官副知事ヲ命ゼラ
 レ同年七月八日其廢官ト爲ルニ及ビ更ニ選舉ニ由リテ大藏少輔
 ニ任ゼラル
 一 同月廿二日民部大輔ニ任ゼラル
 一 八月十一日大藏大輔兼任ヲ命ゼラル
 一 明治三年七月十日日本官ヲ免ジ大藏大輔專任ヲ命ゼラル
 一 九月二日參議ニ任ジ大政官ニ列セシメララル
 一 閏十月十四日制度御用掛ヲ命ゼラル

一、此年群議ヲ併シテ京濱間ノ鐵道敷設並ニ全國ノ電線架設ノ計ヲ
 定メ之ヲ決行ス
 一、明治四年三月十八日各國條約改訂御用掛ヲ命ゼラル
 一、六月廿五日日本官ヲ免ゼラレ廿七日改メテ大藏大輔ニ任ゼラル
 一、七月一日制度取調兼務ヲ命ゼラレ十四日復タ參議ニ任ゼラル
 一、十二月九日正四位ニ敘セラレ十三日^溥地利國展覽會御用掛ヲ命
 ゼラル
 一、明治五年六月郵便報知新聞社創立ニ際シ陰ニ幫助ノ力有リ爾來
 繼續シテ報知新聞社ト改名セル今日ニ及ブ
 一、十月廿五日一鐵道創建ノ始物議紛々^忽ノ不顧定見ヲ確取シ終ニ今
 日ノ成功ニ及候段^叡慮不淺云々^一ノ優詔ト共ニ御劍一口ヲ下賜
 セラル
 一、明治六年五月九日日本官ヲ以テ當分大藏省事務總裁ヲ命ゼラル
 一、十月廿六日大藏卿ヲ兼任ス
 一、明治七年四月五日臺灣蕃地事務局長官ヲ命ゼラレ十五日長崎臺
 灣蕃地事務局出張ヲ命ゼラル
 一、明治八年四月三十日地租改正局御用掛ヲ命ゼラル
 一、明治十年十一月二日勳一等旭日大綬章ヲ授ケラレ十二月四日征
 討費總理事務局局長官ヲ命ゼラル
 一、十二月四日一襲ニ臺灣ノ學アルヤ汝重信事務長官ノ任ヲ盡シ日

夜阻勉能ク之ヲ綜理ス朕其功勞ヲ嘉シ云々ノ優詔ト共ニ金幣
 千五百圓ヲ賜與セラシムル
 明治十一年五月十六日地租改正局總裁ヲ命ゼラル
 明治十一年五月十六日地租改正局總裁ヲ命ゼラル
 八月先帝陛下北陸御巡幸ニ扈從ス
 明治十二年三月七日條約改正御用掛ヲ命ゼラル
 明治十三年二月廿八日兼官ヲ免ゼラル
 此年海外貿易ノ發達ト國際金融ノ圓滑ヲ期シテ正金銀行ヲ創意
 シ其開設ヲ助ク
 明治十四年七月廿二日特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ從三位ニ叙セラ
 ル
 同日一地租改正事務勉勵候ニ付云々ノ優詔ト共ニ金二千圓下
 賜セラシムル
 八月先帝陛下東北御巡幸ニ扈從ス
 十一月十二日願ニ依ツテ本官ヲ免ゼラル
 明治十五年三月一後三十一日改進黨ヲ組織シ其總理トナリ十九年四
 月之ヲ辭ス其後三十一日改進黨ヲ組織シ其總理トナリ十九年四
 黨ト合シテ憲政黨ヲ組織スルヤ之ニ入り憲政黨ガ舊自由黨系憲
 政黨ト舊進歩黨系憲政黨トニ瓜分スルニ及ビ三十三年六月憲
 政本黨總理トナリ四十年一月之ヲ辭ス爾來復ビ藉ヲ政黨ニ置カ
 ズト雖モ同志會並ニ其化身タル憲政會ノ創立ニ力ヲ假ス等絶ヘ

一 政黨ノ改善ヲ幫助シテ怠ラズ
 一 明治十五年四月私學開設ノ議ヲ定メ十月東京專門學校ヲ創設シ
 一 明治二十年四月其早稻田大學ト改マルニ至リ更ニ其總長トナル
 一 明治二十二年五月九日特旨ヲ以テ華族ニ列セラレ伯爵ヲ授ケラル
 一 明治二十六年正月三位ニ敍セララル
 一 明治二十九年二月一日外務大臣ニ仕ゼラル
 一 明治三十二年二月一日從二位ニ敍メラル
 一 明治三十四年十一月十二日願儀ニ依リ本官ヲ免ゼラル
 一 明治三十九年九月外務大臣ニ任ゼラル
 一 明治四十一年三月九日農商務大臣ヲ兼任ス
 一 明治四十三年六月二十日正二位ニ敍セララル
 一 明治四十四年六月二十日內閣總理大臣兼外務大臣ニ任ゼラル
 一 明治四十八日法典調査會總裁ヲ仰付ケラル
 一 明治四十九日願儀ニ依リ本官ヲ免ゼラル
 一 明治五十年八月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治五十二年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治五十四年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治五十六年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治五十八年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治六十年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治六十二年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治六十四年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治六十六年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治六十八年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治七十年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治七十二年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治七十四年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治七十六年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治七十八年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治八十年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治八十二年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治八十四年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治八十六年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治八十八年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治九十年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治九十二年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治九十四年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治九十六年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治九十八年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 明治九十九年四月八日願儀ニ依リ法典調査會總裁ヲ免ゼラル
 一 此年日印協立ニモ大ニ助力シテ其會頭トナリ其後日蘭協會ノ日

一、印協會ト台スルニ至リテモ引續キ其會頭タリ
 一、明治卅四年四月日本女子大學校ノ創立ニ際シ創立委員長トシテ
 最モ力ヲ致シ卅八年七月其財團法人トナルニ及ビ更ニ其評議員
 トナル
 一、明治卅七年八月同仁會々長トナリ支那其他亞細亞諸國ニ醫學藥
 學及ビ其智識ヲ普及スルヲ以テ目的トスル同會ノ爲ニ齋策施設
 スル處尠カラス
 一、明治四十年十一月多年ノ勞苦ヲ積メル開國五十年史ノ編纂成ル
 一、明治四十一年六月大日本文明協會ヲ創設シテ其會長トナリ泰西
 文明ノ移植、普及ニ貢獻ス
 一、此年日清生命保險會社ノ創立ニ際シ多大ノ援助ヲ與フ
 一、明治四十二年四月帝國軍人後援會々長トナリ軍人ノ家族遺族並
 ニ傷病兵ノ救護慰藉ノ事業ニ盡瘁ス
 一、九月開國五十年史ノ漢譯並ニ英譯成ル
 一、明治四十三年二月國民讀本ノ著述成ル
 一、此年大日本平和協會々長トナリ世界ノ平和事業ノ爲ニ努力シ來
 ル
 一、明治四十四年四月ヨリ機關雜誌トシテ新日本ヲ創刊シ大正六年
 八月病ヲ以テ其主宰ヲ辭シ病癒エタル後翌七年五月大觀社ヲ創
 設シテ雜誌大觀ヲ主宰シ九年四月大觀社ヲ廢シテ其經營ヲ實業

之日本社ニ移シタル後モ續イテ大觀ヲ主宰シ每號論文ヲ發表シ
 來ル
 五月菊花大綾章ヲ賜ハル
 大正二年一月ヨリ實業之日本社内帝國實業講習會總裁トシテ實
 業知識ノ普及ニ貢獻シ來ル
 四月開國大勢史ノ大著成リ翌五月國民讀本ノ改訂ヲ終ル
 大正三年四月十六日内閣總理大臣兼内務大臣ニ任ゼラル
 九月帝國飛行協會々長トナル
 大正四年一月七日兼官ヲ免ゼラル
 七月三十日内務大臣兼任ヲ命ゼラル
 八月十日兼官ヲ免ゼラレ外務大臣兼任ヲ命ゼラル
 十月十三日兼官ヲ免ゼラル
 同月三十一日京都市幸供奉仰付ケラル
 大正五年四月十日軌制調査會々長仰付ケラル
 七月十四日特ニ侯爵ヲ授セラル
 同日大勳位ニ叙セラレ菊花大綾章ヲ授ケラル
 十月六日軌制調査會々長ヲ免ゼラル
 十月九日願ニ依リ本官ヲ免ゼラレ特ニ前官ノ禮遇ヲ賜ハル
 同日一卿夙ニ國事ニ盡瘁シテ大政維新ニ參シ贊襄匠輔シテ以テ
 朕ガ躬ニ及ベリ今請フ所ヲ允シテ閑ニ就キ老ヲ養ハシム卿其レ

加餐自愛シテ尙ホ朕ガ意ニ稱ハンコトヲ勉メヨトノ優詔ヲ賜
ハル
大正七年二月十八日維新史料編纂官顧問仰付ケラル
大正十年十二月二十五日攝政宮殿下ヨリ「皇上曩ニ卿等ニ賜ハ
リシ勅語ニ基本ツキ予ハ卿等ノ匡輔ニ頼ラムコトヲ希望ス」ト
ノ御詞ヲ賜ハル

其他帝國愛蘭會、日本園藝會等ニ會長トシテ移民事業ノ伸張ニ盡シ又
ヲ助ケ大日本移民協會ニ會長トシテ移民事業ノ伸張ニ盡シ又
肥前協會佐賀縣育英會等ニ會長トシテ會務ヲ統督スルノ外陸
軍出身者ニ成ル佐賀縣軍友會海軍出身者ニ成ル知新會佐賀同
郷實業會佐賀郷友青年會等ニ關係シテ之ヲ輔導スル等一方郷
黨ノ爲ニ謀ルヲ怠ラズ尚ホ日清印刷株式會社帝國通信社ノ創
立ニモ力ヲ假シ我國印刷事業通信事業ノ上ニモ貢獻スル所
少ナラザル等斯ノ如ク陰ニ陽ニ其援護ニ頼ル大小幾多ノ公益
事業若シクハ團體會社等ヲ枚擧セバ殆ンド其類ニ堪ヘズ上
記ノ如キハ洩ス所猶ホ頗ル多シ
又國民外交ニ資セントシテ門戸ヲ開放シ普ク客ヲ世界ニ
延キタル爲ニ苟モ我國ニ來レル東西洋ノ名族大官碩學鉅商識
者ノ操觚者等ニシテ來訪交歡セザル者無キノ觀アルノミナラ
ズ又雜誌大觀ニ發表セル其論文ガ每號多ク世界ノ諸新聞諸

雜誌ニ詳載セラル、以外ニ其等世界ノ諸新聞諸雜誌ノ需ニ應
ジテ自ラ論文ヲ寄セタルコト甚ダ多シ
尙ホ世界大戰後泰西思潮ノ急變ニ伴ヒ國內ノ民心動搖ノ兆ア
ルヲ慨シ進ニ走ラズ保守ニ墮セズ中正ノ見ヲ持シテ國民ノ
歸嚮ヲ定メント欲シ衰ニ大正九年四月五六ノ三個月ニ亘リテ大
觀誌上ニ敎化的國家論ヲ公ニシ一夕此爲ニ特ニ斯界ノ翹楚ヲ
招請シテ其批評ヲ求メ爾來之ヲ具體化スルノ運動ニ志シツ、
アリ更ニ東西文明ノ調和ヲ以テ畢世ノ事業トナシ是ガ爲ニ研
鑽多年其結果トシテ東西文明淵源ノ比較研究ノ大著稿略ボ定
マリ今既ニ上梓ノ緒ニ就キツ、アリ